

情報連絡員報告・10月分

製造業の売上高と収益状況のDI値が大幅に好転

<東京都中央会>

10月の情報連絡員報告によると前月とくらべ、製造業の売上高と収益状況のDI（前年同月比）値が大幅に好転した。（売上高は約15ポイント、収益状況は約10ポイント）しかし、特記事項では製造業より「売上高は増加したが利益には跳ね返っていない」、「受注増がみられるものの採算は厳しい」、「売上高は増えたが、量がでないので収益は苦しい」等、依然として収益の確保に苦しむ現状が報告された。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計

特記事項欄より

「食料品」

- ・国産穀物相場が高騰している。豪州産小麦の記録的な不作、新興発展国での輸入意欲の増加、円安基調といくつかのマイナス要因が重なり、今後の業界は不安を抱えている。（小麦粉製造業）

「繊維・同製品」

- ・気温が高めに推移しているので、季節色のある商品は苦戦しているが、雨が少なく、行楽日和が続いているので定番商品は順調な売れ行き。ニット帽子は今期も好調。（帽子製造業）

「木材・木製品」

- ・売上高は増加したが、利益には跳ね返っていない。今後の見通しは微妙なと

ころ。二極化の傾向は続いており、需要についての意見は二つに割れている。

（建具製造業）

「化学・ゴム」

- ・若干の値上げにより売上高は増えたが、量がでないので収益は苦しい。景気回復基調にあるとは到底思えない状況。

（塗料製造業）

「電気機器」

- ・前月と同様の傾向。前期に比較して受注増がみられるものの、採算は原材料の上昇により厳しい状態。例年はこれから冬に向けて設備操業度が上昇する時期となるが、多忙感のみが引き続いて残るのではないかと心配。

（配電盤機器製造業）

「その他製造」

- ・受注単価は長引く労務不況で値上りの傾向をみせているが、労務にかかる負担が増加しており、企業収益はむしろ悪化している傾向にある。このまま稼働率が上昇すれば、資金繰りが悪化する傾向にある。（ガス圧接業）

「卸売業」

- ・米国产牛肉輸入解禁も制限付きでニーズを満たせず、不完全。国産牛は稀少であり価格高騰。年末商戦を迎えるにあたり不安材料が山積みで期待が持てない。（食肉卸売業）

「小売業」

- ・通常であると秋の需要の本番となるが、9月後半から10月は材価の値上りが続き、売上がのびなかった。背景には建

設業界の不振があると思われる。木材・合板等、相場は強含みで推移すると思われ、組合員の利益確保は困難。

（木材小売業）

- ・今年は例年になく温暖で、野菜類が豊作で推移し、安価のために過剰の傾向が出てきた。（野菜果実小売業）

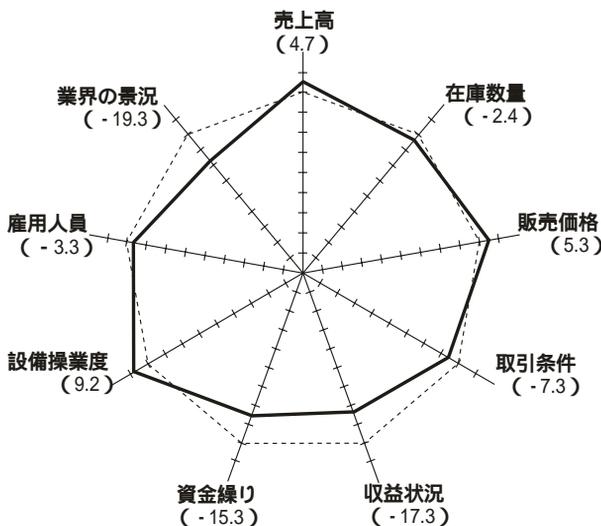
< 要望事項欄より >

- * 廃業事業所が法律や条例に的確に対応できるように助成措置を講じてほしい。具体的には財政支援か、税制上の引当金創設などを。 [電気めっき業]

- * 駐車違反の取締りは強化されたが二輪車用の駐車場はなく、死活問題となっている。行政の早い対応をお願いする。

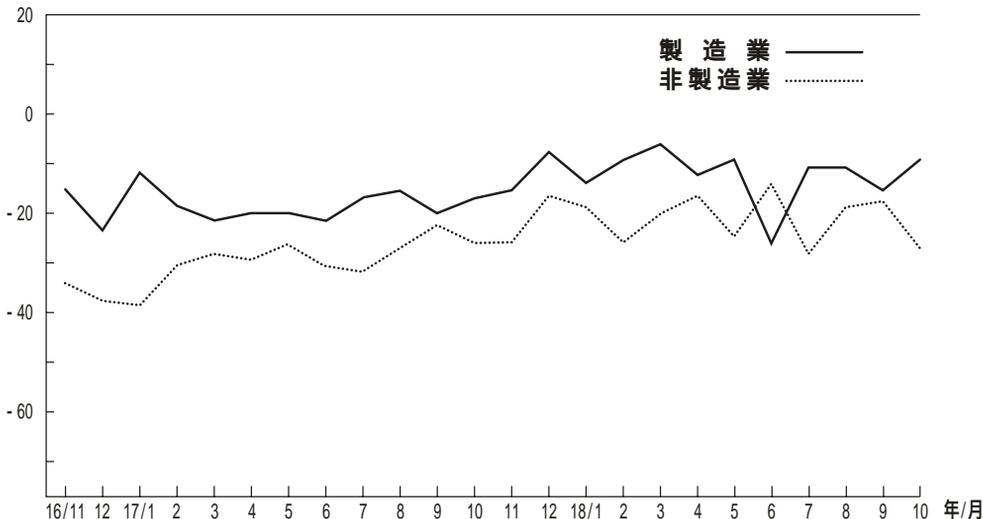
[二輪自動車小売業]

10月のレーダーチャート（全産業、前年同月比DI値）

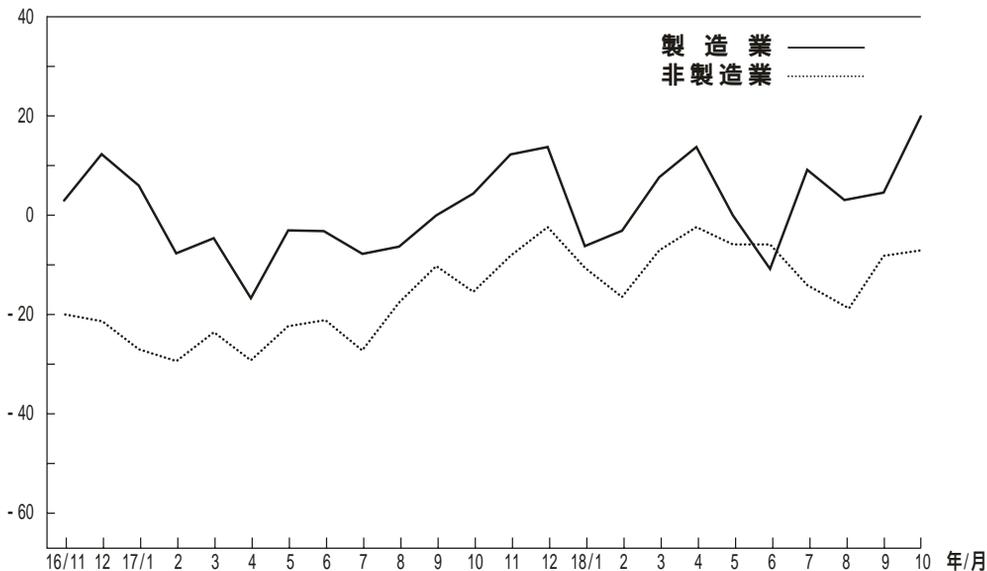


(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

業界の景況DIの変化 (H16.11 ~ H18.10)
(前年同月比)



売上高DIの変化 (H16.11 ~ H18.10)
(前年同月比)



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。